

令和2年度 第2回向日市いじめ防止対策推進委員会

- 1 日 時 令和3年2月25日(木) 午後1時から同2時30分まで
- 2 場 所 乙訓総合庁舎1階 第2会議室
- 3 出席委員 本間委員長(大学教授)、平副委員長(弁護士)、北口委員(臨床心理士)、
荒井委員(臨床心理士)、西村委員(医師)

4 内 容

(1) 令和2年度いじめ調査の結果の概要について(資料を基に説明)

① 1回目の追跡と2回目のいじめ調査の結果

- ・認知件数 小学校426件と526件、中学校39件と85件、小中合計年間1076件
- ・未消件数 小学校 72件と518件、中学校2件と84件、小中合計年間 676件
- ・解消件数 小学校354件と 8件、中学校37件と 1件、小中合計年間 400件

② 学年別認知件数の傾向

- ・小学校高学年から、学年が上がるにしたがって減少する傾向にある。ただし、中学1年生については、昨年度との比較で増加しており、コロナ禍での中学校生活への不適応が要因となっていることも考えられるため、一層丁寧な指導を継続させる。

③ 認知されたいじめの態様

- ・小学校では、「冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、「仲間はずれ、集団による無視」が、中学校では、「冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする」が、いじめの態様の中で多くを占めている。

(2) 助言等

- ・学校において、「金品をたかる」、「ひどくたく」などの事象が生じた場合、しっかりと対象児童生徒に対して犯罪行為であることを教えるべきである。大人になったら刑事罰が与えられるということも教えていただきたい。教育委員会からも学校に指導願いたい。
- ・1回目アンケートの追跡調査で、中学校において、ほとんどがケースで解消とされている点が気になるところである。中学生の時期は、いじめの問題が大きくなることを心配して、「解消した」と言ってしまう傾向にある。そのことにも十分配慮して、継続して事象を見守るように、教育委員会から学校に指導していただきたい。